

平成二十九年 度

小学校教員資格認定試験

教職に関する科目 (Ⅱ)

国 語

注 意 事 項

受験者は、左記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

- 一、試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 二、実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成二十九年 度「幼稚園・小学校教員資格認定試験解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
- 三、受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
- 四、解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
- 五、解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
- 六、マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
- 七、この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから五〇分です。
- 八、試験が終わるまで退室できません。
- 九、試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。
- 十、下書きには問題冊子の余白を使用してください。
- 十一、試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。

[マーク例]

(よい例) ●

(悪い例) ⊕ ⊗ ⊖ ⊙

※以下の問いにおいて、「小学校学習指導要領(国語)」とは、「小学校学習指導要領」(平成二十年文部科学省告示第二十七号)第2章 第1節 国語を言う。

問一 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 国語編』(平成二十年八月、文部科学省)「第1章 総説」3 国語科改訂の要点」の(4) 学習の系統性の重視の一部である。文中の空欄 に入る語の組合せとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

国語科の指導内容は、系統的・ に上の学年につながっていくとともに、 ・反復的に繰り返しながら学習し、 の定着を図ることを基本としている。そのため、児童の実態に応じ、各領域の指導事項及び、さらには「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を関連付けながら、重点を置くべき指導内容を明確にし、その系統化を図っている。

- | | | | | |
|---|-----|-----|-------|-------|
| | A | B | C | D |
| ア | 段階的 | 螺旋的 | 能力 | 言語活動例 |
| イ | 螺旋的 | 体系的 | 関心・意欲 | 言語能力 |
| ウ | 段階的 | 弾力的 | 関心・意欲 | 言語活動例 |
| エ | 弾力的 | 螺旋的 | 能力 | 指導計画 |

問二 「小学校学習指導要領(国語)〔第5学年及び第6学年〕の2 内容」における「A 話すこと・聞くこと」に関する内容のうち、(1)に示されている指導事項の記述として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。
- イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。
- ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。
- エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

問三 「小学校学習指導要領(国語)〔第3学年及び第4学年〕の2 内容」における「A 話すこと・聞くこと」に関する内容のうち、(2)に例示されている言語活動として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。
- イ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。
- ウ 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。
- エ 調べたことやまとめたことについて、討論などをする事。

問四 次の文は、「小学校学習指導要領(国語)」の各学年における「1 目標(2)に示されている「書くこと」の目標である。文中の空欄

A

D に入る語の組合せとして正しいものを、後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔第1学年及び第2学年〕

経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、
とする態度を育てる。 A 書く

〔第3学年及び第4学年〕

相手や目的に応じ、 B などが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書く
こうとする態度を育てる。

〔第5学年及び第6学年〕

目的や C に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の D を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書くこととする
態度を育てる。

	A	B	C	D
ア 進んで	調べたこと	意図	効果	
イ 楽しんで	考えたこと	意図	適切さ	
ウ 進んで	考えたこと	関心	工夫	
エ 楽しんで	調べたこと	関心	的確さ	

問五 「小学校学習指導要領(国語)」〔第1学年及び第2学年〕の「2 内容」における「B 書くこと」に関する内容のうち、(2)に例示されている言語活動に含
まれないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。
- イ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。
- ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。
- エ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。

問六 「小学校学習指導要領(国語)」で、各学年の「2 内容」における「C 読むこと」に関する内容のうち、(1)に示されている指導事項について、学年と事
項との組合せとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア (第1学年及び第2学年) 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。
- イ (第3学年及び第4学年) 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。
- ウ (第3学年及び第4学年) 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。
- エ (第5学年及び第6学年) 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

問七 「小学校学習指導要領(国語)」〔第5学年及び第6学年〕の「2 内容」における「C 読むこと」に関する内容のうち、(2)に例示されている言語活動とし
て正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。
- イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。
- ウ 伝記を読み、自分の生き方について考えること。
- エ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。

問八 「小学校学習指導要領(国語)」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」で示されている、各学年の内容の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の(1)で示す指導事項の取扱いについて誤っているものを、次のア、イ、エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 特定の事項をまとめて指導したり、繰り返して指導したりすることが必要な場合については、特にそれだけを取り上げて学習させるよう配慮すること。

イ 伝統的な言語文化に関する指導については、第5学年及び第6学年で行い、多くの古典に触れられるよう配慮すること。

ウ 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導することもできること。

エ 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができること。

問九 「小学校学習指導要領(国語)」(第5学年及び第6学年)の「2 内容」における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する内容のうち、

(1)ウ 文字に関する事項」に示されている内容として正しいものを、次のア、イ、エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。

イ 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

ウ 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。

エ 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。

問十 「小学校学習指導要領(国語)」における各学年の「² 内容」の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する内容のうち、(2)に示されている指導事項について、学年と事項との組合せとして正しいものを、次のア、イ、ウの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア (第1学年及び第2学年) 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。
イ (第1学年及び第2学年) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。
ウ (第3学年及び第4学年) 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。
エ (第5学年及び第6学年) 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。

問十一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本の農業は稲作の拡大のため長い間、耐寒品種の開発に向けられてきた。また、自主流通米が許可されると、美味として名高い新潟や宮城の特産となつている高価なコシヒカリやササニシキ、さらにはそれをも上回る味をもつ品種を、日本中で栽培しようとする努力が続けられている。

ところが、困難な条件のもとで生産される農産物は、当然ちよつとした気象の変化や作付け条件の変化で、すぐ生産に支障をきたしてしまう。高い価値をもつ農産物とは、とりもなおさず「**A**」になりやすい農産物なのである。

したがって、農業は生産技術がいかに進歩したとしても、それが商品生産にむけられるかぎり不作がつきものである。なぜなら、豊作貧乏も農民にとっては貧乏になることに違いがないからである。農民が自己の生活を充実したものとするためには、不作になる危険性をもつ農産物を生産せざるを得ない。極言すると、農民は商品経済のもとでは、不作になるような栽培作物を選択していかざるを得ないのである。もし、不作への危険を回避しようとする、労働の対価^Bは低い。つまり農民は「**過剰生産**」と「**不作**」という二つの相反する危険の間で、自らの目標を定めながら農業に従事しているのである。

(藤田弘夫『都市の論理』による。)

本文中の空欄 **A** に入る言葉として最も適切なものを、次のア、イ、ウの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 不作 イ 裕福 ウ 割高 エ 豊作

問十二 問十一の本文中の傍線部B「対価」の意味を説明したものととして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 与えた利益に対して、報酬を受け取らないこと。
- イ 受けた利益に対して、報酬を支払わないこと。
- ウ 受けた利益に対して、支払う報酬のこと。
- エ 与えた利益に対して、受け取る報酬のこと。

問十三 問十一の文章に付ける小見出しとして最も適切なものはどれか。次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 日本の特産物としての米
- イ 生産技術の進歩と生活の充実
- ウ 食糧生産に伴うジレンマ
- エ 不作を回避する方法

問十四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

むかし、二条の后に仕^Aうまつる男ありけり。女の仕^Aうまつるを、つねに見かはして、よばひわたりけり。「いかでものごしに^B対面して、おぼつかな
く思ひつめたること、すこし晴^はるかさむ」といひければ、
彦^{ひこ}星^{ほし}に恋はまさりぬ天の河へだつる関^{せき}をいまは止^やめてよ

D この歌にめでてあひにけり。

(『伊勢物語』による。一部表記を改めた。)

本文中の傍線部A「仕^Aうまつる」の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 謙譲語で、「男」を敬う表現
- イ 尊敬語で、「男」を敬う表現
- ウ 丁寧語で、「二条の后」を敬う表現
- エ 謙譲語で、「二条の后」を敬う表現

問十五 問十四の本文中の空欄

B

と

C

に入る語の組合せとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア B 女 C 男
- イ B 二条の后 C 男
- ウ B 男 C 女
- エ B 女 C 二条の后

問十六 問十四の本文中の傍線部D「この歌にめでて」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア この歌に驚いて
- イ この歌に圧倒されて
- ウ この歌に心ひかれて
- エ この歌にあわれみを感じて

問十七 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合で一部の送り仮名を省略した。

後漢郭巨家貧養老母妻生一子三歳[A]常減食与之巨謂妻曰「貧乏

不能供給共汝埋子子可再有母不可再得」妻不敢違巨遂掘坑二尺余、

忽見黄金一釜釜上云「天赐孝子郭巨官不得奪人不得取」

(徐注本『蒙求』による)

(注) 郭巨——後漢の人。二十四孝(父母に対する孝行で有名な二十四人)の一人。

釜——液体や粉状・粒状物の分量をはかる器物で、六斗四升(後漢の一斗は一・九八リットル、一升はその十分の一とされる)が入る。

本文中の空欄[A]に入ることば(漢字)として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 巨
- イ 妻
- ウ 母
- エ 子

問十八 問十七の本文中の傍線部B(送り仮名は省略した)の書き下し文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 孝子郭巨を賜ふ。
- イ 孝子を郭巨に賜ふ。
- ウ 孝子に郭巨を賜ふ。
- エ 孝子郭巨に賜ふ。

問十九 次のア、イ、エの傍線部の中には、「不注意から生じた事故」における「から」と同じ用法のものがある。それを一つ選んで記号で答えなさい。

ア 授業は八時から始まる。

イ 太郎はカバンからノートを取り出した。

ウ 早く机からおりなさい。

エ この症状はたぶん過労から来たのだと思う。

問二十 次のア、イ、エの傍線部の中には、「雪のように白い」における「よう」と同じ用法のものがある。それを一つ選んで記号で答えなさい。

ア 息子はやっとヒーマンが食べられるようになった。

イ 見た限りでは、壊れていないようですけどね。

ウ まるで雷に打たれたような衝撃を受けた。

エ 五十音順になるように並べ替えましょう。